

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth

国際探求学科の総合的な学習の時間で実施した課題研究の中から、昨年度の課題研究を引き継いだ防災班による取り組みをまとめ、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth のポスター発表部門に参加した。応募総数 67 校の中から 10 校のファイナリストに選ばれ、当日の発表審査の結果、本校防災班「Let's Walk Together!」のポスター発表が上位 3 チームに送られる優秀ポスター賞を受賞した。

大会要項より

高校生のための国際交流・国際協力 EXPO 2018 「開け入り口!! 拓け未来!!」

開催日： 2018 年 12 月 24 日（月曜日・祝日）10：00～16：00

会場： 大阪 YMCA（大阪市西区土佐堀）

主催： ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会、

（特定非営利活動法人）関西 NGO 協議会

後援： 外務省、文部科学省、独立行政法人国際協力機構 関西センター（JICA 関西）、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター、公益財団法人大阪府国際交流財団、認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR）



高校生のための国際交流・国際協力 EXPO

ポスターセッションについて

審査基準

< 内容 >

- (1) **現状分析** 十分なりサーチをもとに、的確に現状に対する問題意識を指摘できている
- (2) **プランの完成度** 問題を解決するために実現可能な適切なプランを筋道立てて組み立てられている
また、プランは確実に問題解決につながり、長期的な視点（持続可能性）から考えられている。
- (3) **独創性** マンネリ化したプランではなく、高校生らしいユニークな視点を持つ

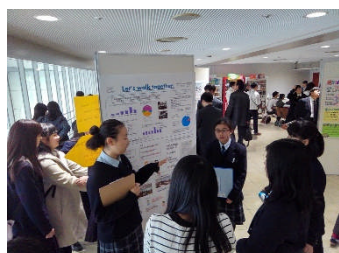
< 発表 >

- (4) **ポスター構成** ポスター・配付資料の構成が明確であり、内容を把握しやすい
- (5) **アピール力** ポスターを効果的に利用して、グループの成果を明確に説明し説得力がある
- (6) **時間配分** 質疑応答を含め 5 分以内に終了したかどうかを評価の対象とする

◎ファイナリスト:10チーム(当日審査対象)

兵庫県立高砂南高等学校	地球戦隊『ゴミ減らすんジャー』	MyOOキャンペーン Which do you use?
兵庫県立高砂南高等学校	カカオ	子どもの未来を救おうプロジェクト
兵庫県立尼崎小田高等学校	Consider Disaster Prevention	Let's walk together!
神戸市立葺合高等学校	NARISA	Bridging the Gap
大阪府立堺東高等学校	チーム国際理解・食糧班	捨てられる食べ物と子どもたちのいのち
立命館守山高等学校	Front Runner	日本の防災協力を世界へ！
立命館守山高等学校	Seeds	LGBT(同性愛者)が生きにくい現状について
立命館守山高等学校	アーサーカレー	作れカレー 明ルウイトレード
立命館守山高等学校	ANAP	ASSISTANCE FOR SPORT
兵庫県立兵庫高等学校	兵庫高校 外国人労働者	外国人労働者に多く来日してもらうために

当日の様子



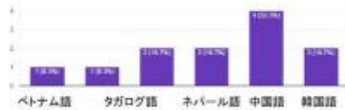
Consider
Disaster
Prevention

Let's walk together!

兵庫県立尼崎小田高校 国際探求学科
副校長 氏丸 優羽 藤田 節雄
山田 夏華 吉橋 優

尼崎市国際交流協会主催の日本語教室に参加している地域の外国人の方々25名に事前アンケートを実施。13名の方から回答を頂いた。(7月25日)

Q3-1 あなたの母語(ぼご)は何語(なにご)ですか？

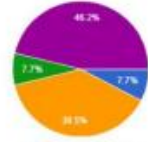


Q3-2 母語(ぼご)以外でいちばんよくわかる言葉(ことば)は何語(なにご)ですか？

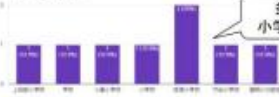


言葉や滞在年数、避難場所等についてアンケート

Q2 日本(にほん)に来て(きて)、何年(なんねん)になりますか？



Q4-2 避難(にほん)したらいい場所(場所)は、どこですか？



災害のリスクについての知識

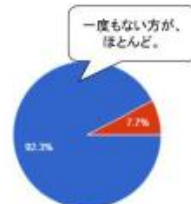
Q9 おすまいの地域(ちいき)に、どのような災害(さいがい)のリスク(りすく)があるか知(し)っていますか。(6件は回答なし)

- 地震、火災、洪水
- 津波、壁、棚、ガラスが割れるかもしれない。
- わかりません。
- 土地が低いので水害に弱い。
- 津波がくる。地震が起きる。
- 経験がないので、とても怖くて何をしたらいいかわからなかった。
- 津波がくる。

知識のある方もいらっしゃるが、多くは地震、津波といった言葉のみ、無回答も半数近い。

地域とのつながり

- 一度いぢどちない
- 数回すうぢもある
- 何回(なんど)もある
- 毎回参加する



Q6 あなたは住んで(すんで)いる地域(ちいき)の防災訓練(ぼうさいくんれん)に参加(さんか)したことがありますか？

問題点

- 災害の知識が不十分で危険性すらも知らない
- 地域の日本人と外国人のつながりが薄い

原因

- 被災や防災教育の経験が少ない
- 防災知識を深める機会がない
- 地域の人と関わりを深めあえる場がない

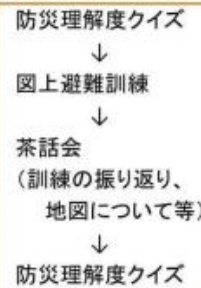
見込まれる効果

- 外国人日本人に関わらず防災知識を深めることができる
→災害時に「自分の判断」で行動
- 近所の方と交流することができる
→「共助」が出来るようになる



11月11日(日)尼小田滅災フェスでイベントを企画

イベントの流れ



防災マップ

結果

事後不問で外国人の方が一人も集まらず...



地域の方と高校生、計34人でイベントをすることにしました！！

～図上避難訓練～

- ひとりひとりが避難について考え、発言できた
- 訓練を通して防災について学ぶことができた
- 地域の方と高校生が、移動系など関係なく交流を深める事ができた



～茶話会～

グループ全員が積極的に発言できた



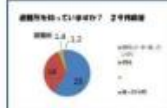
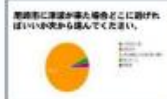
しかし、外国人の方を交えての避難訓練が実施できなかった。

そこで、後日、本校のALTと一緒に図上訓練をしました！



ALTの声

This was very fun and I learned a lot from them. I have never heard what it should do during a disaster. I think everyone should have what to do during a disaster.
It is also important to communicate with locals and those learned to meet if contact is cut.



参加者の声

言葉と話し合いすることの大切さが分かった。いつ災害が来てもいよいよに普段から備えておけば少しでも対応ができるのではないかなと思いました。

実際にこのような図上避難訓練をしてみても、思いもよらぬことがたくさんあるので、想像していたよりも避難することが難しいと感じました。

・今回のイベントを通して、ひとりひとりの防災知識が高まった。
→アンケート結果の一部を見るとまだまだ知識が足りないところもある。

・地域住民と高校生が楽しく交流し、親睦を深めることができた。

・色々な視点から防災について考えることができた。

今回の企画は、香川順志(2017)「オーダーメイド避難のための学校周辺地域の定例一歩的行動する防災を目的D&G、クロスロード」、人文地理69-3、2017、411-412、を参考に、著者である香川さんの全書協力の下行われました。香川さん、ありがとうございます！